



2018年10月12日

システム企画研修株式会社

背景



21世紀になって日本が負け出したのはなぜでしょうか？

その一因は

日本人の思考法にあると思われます。

日本では、長い間の生活習慣から

「目的は自明である」

「現状維持を重視する」思考が強く、

あらためて「目的を追求しよう」という意識が弱いのです。



これは、安定社会には強い思考法です。

そのため、新しいことに取り組む場合も、コンセンサスであるべき姿を探求しようとする。
この方法は **時間がかかり変化の早い現代には適合しません。**

米国は、多民族・多宗教国家ですから、
何かをするときに「阿吽の呼吸」はありえません。

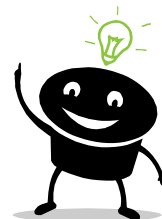
必ず「**何のためにそれをするのか**」から検討を開始します。
目的を決めてその実現に突き進むのです。



この米国型思考法は **変革社会に強い思考法** であると言えます。

韓国・中国の一部企業が強いのは、
トップダウンで目的を設定して、その実現に向けて突き進むことも成功要因となっています。

「日本も負けてたまるか」と思いませんか？
その秘策を習得いただく研修のご案内です。



お問い合わせ システム企画研修株

電話：03-5695-3130

mind-pc@newspt.co.jp

http://www.newspt.co.jp



問題解決力強化研修目的・ねらい重視版のご案内

1. 当研修の目的・ねらい (Why)

(1) 目的

- 1) ビジネスのあらゆる活動を行う場合に有効な、的確に目的を設定する思考法「価値目標思考」を学んでいただきます。
 - 「どうしようか」を考える前に、「何のためにそれを行うのか?」「それを実現する目的・ねらいは何か?」と考えるのです。
 - なぜなら、目的によって「行うこと」の方向が異なるからです。
- 2) それを受けて、的確に目的を設定する手法である「目的・ねらい明確化手法」を学習していただきます。
 - 的確に目的が設定できれば、問題解決策は容易に導き出せる場合が大半です。
 - 当研修では、この手法の習得に必ずしも十分な演習時間をとっておりません。宿題の実践課程で、教材等に基づいた実践を行い、習得レベルに到達していただきます。
- 3) その後、その目的を達成するための的確な解決策を導き出す手法（「解決策導出手法」）を習得していただきます。



(2) ねらい

- 1) システム開発・保守を含むあらゆるビジネスシーンにおいて「価値目標思考」「目的・ねらい明確化手法」「解決策導出手法」を活用し、大きな業務成果を挙げていただきます。
- 2) 問題解決の実現のためには、別途、解決策・目的・ねらいを実現するための企画案を作成する「企画立案手法」を習得していただく必要があります。



2. 当研修の内容 (What)

項目	内容	特徴
問題解決の思考法 (価値目標思考)	<ul style="list-style-type: none"> • 目的・ねらいの意義・重要性 • 目的・ねらいの完全定義方法 	ねらいを定めて目的を設定するアプローチです。目的を決めることが問題解決最大の成功要因です。
問題点連関図手法右方展開 (目的・ねらい明確化手法)	<ul style="list-style-type: none"> • 業務視点の目的である「ねらい」を定めて、問題解決領域での目的を設定するアプローチです。 	このアプローチによって、自然に業務視点での検討が可能となる画期的手法です。
目的・ねらい記述書 (目的・ねらい明確化手法)	<ul style="list-style-type: none"> • 問題点連関図右方展開で導き出した「ねらい」と「目的」を、定量化・具体化して明確に整理する記述書です。 	この様式を使用すると、「目的・ねらい」が漏れなく的確に定義可能です。
問題点連関図手法左方展開 (解決策導出手法)	<ul style="list-style-type: none"> • 目的・ねらい明確化手法定めた目的を受けて、その実現方法を網羅的に探究するアプローチです。 	このアプローチによって、先入観・独断と偏見の排除が可能となります。原因追求を目的とせず解決策探求を目的とするという点で一般の連関図手法と一線を画します。

3. 当研修の実施方法 (How)

- 2日の研修と1日の実践結果報告会とから構成されます。
- 時間割をご参照ください。

(1) 2日間の研修

- 1) 解説「問題解決の思考法」
 - 小演習を交えて解説します。
- 2) 演習は以下の手順で進めます。
 - a. 問題点連関図右方展開実施
 - b. 目的・ねらい記述書作成・・・a.の結果を受けて具体化します。自習も必要です。
 - c. 問題点連関図左方展開実施・・・b.の目的を達成するための解決策を探求します。
- 3) 演習テーマは、これからますます重要性の高まる「ソフトウェア保守業務の改善」を使用します（ご相談に応じます）。

(2) 実践報告会

- 研修での習得内容を1か月の間に実践していただき、実践結果をご報告いただきます。
- 対象案件は私生活面でもかまいません。

4. 当研修の対象者 (Where)

- 御社グループの若手社員および中堅社員を対象とします。
- 従事業務は不問です（スタッフ業務でも可）。

5. 当研修の実施期間 (When)

- 2日（分割実施可）+ 1日

6. 当研修の担当講師 (Who)

- 上野 則男

7. 当研修の実施料金 (How Much)

- 講師代：90万円（消費税別）
 - テキスト代：1人分1万円（消費税別）
- （MIND・S・A基本手法ハンドブック、目的達成手法コンパクトガイド、問題解決バイブル、目的・ねらい記述書事例集（Web版）、問題点連関図事例集（Web版）を含みます）



的確に目的を設定し、その解決策を立案する例

- 広い意味の目的を「目的」と「ねらい」に分けて考えると、的確な目的が設定できます。
- 「ねらい」を受けて「目的」を設定するのです。
- 何を「ねらい」にするかによって、「目的」（解決の方向）が異なり、解決策も異なってきます。
- 以下のテーマ例でその点をご確認ください。

1. テーマ1：台所の整理整頓

ねらい	目的	解決策
汚い台所によるストレス解消	● 食べ残しが放置されていない、洗っていない食器類が流しからはみ出していない、ようにする。	● そういう整理整頓を励行する
調理時間の短縮	● 食材・調味料・調理器具・食器が整頓されているようにする。	● そういう整理整頓を励行する

2. テーマ2：受注入力の改善

ねらい	目的	解決策
誤出荷が発生しないようにする	● 得意先・商品・数量の入力ミスをもに近づける。	● その対策を具体化する。
入力者の精神的ストレスを解消する	● 入力原票と入力画面のレイアウトを合わせる。	● そういう設計変更を行う。
入力の生産性を高める	● 入力項目を削減する。	● 対策を立案し具体化する（この解決策は簡単ではない）。

注：抜本策は入力をしないEDI化である。

3. テーマ3：保守業務の標準化

ねらい	目的	解決策
内部統制対応	● 手順とその責任権限者を明確にする（形ができればよい）。	● その具体化を行う（そう簡単ではない）。
ローテーションの容易化	● 基本になる成果物様式の統一。	● 統一案を作成する。
保守起因障害の削減	● 障害原因の過半を占める「影響調査」「テスト」「要件定義」を整備する。	● そこに焦点を当てた解決策を実現する（簡単ではない）

4. テーマ4：ソフト保守影響調査ツールの導入

ねらい	目的	解決策
データ項目変更に対してその使用対象を知りたい	● データ項目の使用プログラムを知ることができる。	● そのようなツールを開発するか導入する。
データ項目変更に対して影響を受けるデータ項目とその使用対象を知りたい	● 「波及分析」ができる。	● そのようなツールを開発するか導入する。
データ項目が標準化されていなくても影響範囲を把握できる	● データ辞書から可能性あるデータ項目が抽出できる。	● そのようなツールを開発するか導入する。

- ▶ 「ねらい」の複合もありえます。その場合は「目的」は加算となりますが、漠然とテーマを実現するのとは結果が異なります。



問題解決力強化研修目的・ねらい重視版のご案内

時間割

1 日め		2 日め		実践報告会	
9:30				9:30	
	オリエンテーション(30M)		初日の復習・ 問題点連関図 左方展開解説(1H)		オリエンテーション(15M)
10:00				10:00	
	目的・ねらいの 意義・重要性解説 「価値目標思考の概要」 (2H)		チーム演習実施(4H)		実践結果報告 (約 5H) 1 人 1 5 分 × 1 8 人
11:00			問題点連関図右方展開補強 目的・ねらい記述書補強 問題点連関図左方展開	11:00	
12:00				12:00	
13:00				13:00	
	問題点連関図手法解説、 演習出題(30M)		チーム演習実施 (つづき)		同上 (つづき)
	問題点連関図手法自習 (30M)			14:00	
14:00	チーム演習実施 問題点連関図右方展開 (1.5H)			15:00	
15:00				16:00	
16:00	演習結果発表・研究(1H)		演習結果発表・研究(1H)		まとめ(1H) (実践のポイント 再確認)
	目的・ねらい記述書解説 (30M)			17:00	
17:00	目的・ねらい記述書演習 (作成指導含む) (1H)		まとめ、実践出題(1H)	18:00	
18:00				18:00	
	(情報交換会)				
19:00					